

# 11月の生活表

2024年 11月

聖マリア幼稚園

年主題：さあ、漕ぎだそう 奏でよう

月主題：<3～5歳児> 感謝しつつ

保育日数（22日）

月目標（3歳児）

- ・秋の実りや身の回りの生活に神さまの守りがあることを知り、ありがとうの気持ちが芽生える
- ・友だちや保育者と一緒に何かになりきって遊ぶ楽しさを知る
- ・果物の味、焚き火の煙、落ち葉の色合いなど五感を通して秋を感じる機会を持つ

月目標（4・5歳児）

- ・神さまがくださった恵みを礼拝や日々の生活の中で感謝する
- ・友だちと遊ぶ中で思うようにしてならないことや自分とは違う想いがあることを経験する。  
また、相手を思っている行動をしようとする
- ・秋から冬の移り変わりを感じる。自然物（木の実や枝など）を生活や制作に取り入れる

今年もあと2ヶ月になりましたね。ややもするとまだ真夏日なのかと思うこともありますが、確実に季節は進み北から紅葉が南下してきています。予報によれば「秋」が短く一挙に「冬」を迎えるとか。お花も気温に驚かされて咲いたり、時期を違えて遅咲きしたり・・・しかし、それだけしっかり気温をキャッチしているという正しく自然の中に生きていることなのですね。

さあ、そんな中、子どもたちもどんどん成長しています。2学期になって背が伸び、体の成長内面の成長の一つの現れです。遠足を経験し・自分の力を信じて挑戦した運動会、もうすぐ11月の「感謝祭」に向かったの準備も始まり、金曜礼拝のお話は「クリスマス」へと繋がっていきます。それぞれの「感謝」に対して、私たちは「人」との関わりの中で、そのことを知り、見えないところで私たちを導き守ってくださっている「神様」に繋がるものでなければなりません。この聖マリア幼稚園だからです。この園で一番大切にしている「理念」の一つだからです。では、人と繋がる時、どのようなことが大切なのでしょう。まず最初の繋がり（関わり）はご挨拶ではないのでしょうか。ご家族の中で、朝の「おはよう（ございます）」を交わしておられますか？ご近所の方やお友だちのお母さんに会われた時には「こんにちは」とご挨拶してられますか？そして寝る前には「おやすみなさい」を言ってからお布団（ベッド）に入ってもらえますか？まずは家族の中での挨拶に始まり、それが癖になって欲しいと思います。その他にも「行ってらっしゃい」「行ってきます」「お帰りなさい」「ただいま」の応答のあるご挨拶もとても大切です。何故改めて？と思われるかもしれませんが。それは、朝の出迎時、親御さんが「ご挨拶は」と言われて初めて「おはようございます」とか細い声でしか聞こえてこないという寂しさを感じているからです。朝一番から元気いっぱいのご挨拶と共にお家の方には大きな声で「行ってきま～す」と行って欲しいのです。就寝時間が遅いのではないのか。十分に眠れているのか。朝からお疲れ？と感じてしまう今日この頃なのです。そして、ご挨拶と共に笑顔は子どもたちにも良い影響をもたらします。いつも明るく、元気であって欲しいと願うのです。負のスパイラルではなくハツラルスパイラルになるように。これから寒くなってきます。気温差に打ち勝ちつ日々のリズムもとても大切です。元気に笑顔でご挨拶。チャプレンコーナーにもあるように「可愛い」からの独り立ちで、将来自分の人生が豊かになるように。そのうち両親・祖父母も子離れできますようにと。さあ、大好きな祖父母をお招きして、初めのご挨拶をから「感謝祭」を始めましょう。

## 《チャプレンコーナー》

年主題：さあ、漕ぎだそう 奏でよう

年聖句：11月月間主題：感謝しつつ

月聖句：成長させてくださったのは神です。

(コリントの信徒への手紙Ⅰ 3：6)

「私は植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。」ここで「私」と記されているのは、パウロの事です。彼は初期キリスト教会最大の功労者でした。各地に教会を作りました。現在に至るキリスト教の基礎を据えた人と言っても過言ではないでしょう。「アポロ」はパウロの同労者です。大変頭がよく、雄弁家で、彼の説教で多くの人が教会に導かれたとのこと。彼らが居なければ、教会は成り立たなかったでしょう。けれどもパウロには、確信していることがありました。「成長させてくださったのは神です。」自分たちはあくまできっかけを作っただけだ。人の心に愛の炎を灯し、信頼の心を増し、教会を作ってくださったのは、神様なのだ。これはパウロの謙遜ではなく、いくつもの経験による実感だったのでしよう。

「親は無くとも子は育つ」と言うことわざがあります。これは半分は正しくありません。小さな子どもは、親や適切な保護者によるお世話がなければ生きていけません。けれどもこのことわざの半分は、真理を表しています。それは「子どもはいつか、親の手を離れ、自立する」ということです。親にとっては、寂しい面もありますが、やはり子どもの自立を視野に入れて育てなければなりません。

子どもは不思議なものです。親から生まれながら、親のコピーではありません。親には無い賢さや優しさ、力強さを持っています。子どもも独立した一人の人格だという、当たり前な事を、改めて思われます。

聖書の言葉やことわざは、「この子は、神様が必ず守ってくださるよ。だから安心して良いよ」というメッセージでもあります。子どもと共に歩める時間を大切に、感謝していきたいとおもいます。

# おたんじょうび おめでとうございます

## <生活指導>

☆ 身近な秋の自然に触れてみましょう。

- ・落ち葉や木の実拾い、山色の変化等から季節の移り変わりに関心を持ちましょう。
- ・巡る季節の営みに気づき、家族で話し合っ神様の業の不思議を賛美しましょう。

☆ 私たちの為に働いてくださっている人々に感謝しましょう。

- ・身近な人、特に父母の仕事を知り、そのお陰で毎日の営みが成されていることに触れ、感謝の気持ちが持てるように話し合ってみましょう。
- ・折に触れて家族で話し合う中で、様々な職業に関心を持ち、そのお陰で社会が成り立っている事に気づくような機会を得てみましょう。

☆ ご先祖様からの命の繋がりを得て、私達が今在る事を再確認し感謝しましょう。

- ・幼稚園で祖父母をご招待する機会がしっかり生かされるように、なかなか会えない孫と祖父母とが共に楽しい時間を過ごせるよう、また感謝の時間となるように、子ども達を交えて何か良き計画を立ててみましょう。
- ・子ども達の誕生から今迄の成長に感謝し、更にこれからのお導きに祈りを捧げましょう。

☆ 体調を整えましょう。

- ・昼夜の寒暖の差に対応できるよう、こまめに衣服の調整をしましょう。  
(ことばをかけながら、本人にも気づかせましょう。)
- ・保護者は上着を持ち帰らず子どもにお預けください。  
(自分の物である認識=大切にす たたむ事で整理整頓の良い癖を)
- ・風邪(咳・鼻水・腹痛等)の予防には、帰宅後の手洗いとうがいが大切です。  
ご家族みんなで、毎日実行してみましょう。
- ・バランスの良い食事・十分な睡眠・朝食の摂取に心がけ、抵抗力を養いましょう。

☆ 静かな秋の夜長のひと時、落ち着いてお話や絵本に親しめるように心がけましょう。

- ・子どもが自分で読めても、大人が読んであげることの大切さを知り、時間と場を共有して楽しみましょう。(小学校低学年迄は読んであげましょう。)
- ・大人は、子どものそばで場を共有することにより、成長発達している子ども達を肌で感じとり、その大切な宝物をくださった神様に感謝しましょう。

## [クラスだより]

### <花組>

秋を感じる瞬間、金木犀の香り、団栗との出会い、運動会を終えた達成感・・・等々、人それぞれ。季節の移り変わりの度に自然や命との触れ合いを積み重ね、秋の深まりが

子どもたちの育ちの深まりと重なり、神様に沢山「ありがとう」と感謝して、心が満たされる、そんな季節を大切に過ごしてゆきたいと思います。

運動会という大きな行事を終えて、ほっと一息。そんな子どもたちに様々な成長が見られます。その成長は一人ひとり様々、あるお友だちにとっては当たり前のことも、あるお友だちにとっては大きな挑戦であったり、決心が必要なことであったりします。先日はベビーカーを卒業したお友だち、初めて牛乳が一本全て飲み切れたお友だち、オムツでしか出来なかったウンチがやっとオマルで出来るようになり次はおトイレで！というお友だち、お弁当給食が丸々食べられるようになったお友だち、とそれぞれに自らの目標や課題を達成しましたが、お友だちのその姿を見て聞いて他の子どもたちも自分のことのように「やったね～！」「すごーい！」「良かったね～！」と拍手をしたり、「バンザ～イ！バンザ～イ！」と喜んだり、みんなで笑顔になりました。誰一人「そんなん出来ないの？」「そんなん出来るわ～」と自分出来ることをまだ出来ないお友だちに対してネガティブな感情を持つことはなく、とても素直にお友だちの健闘を称え、一緒に喜びを分かち合える。そんなクラスの雰囲気がとても優しく子どもらしく誇らしいです。人を思いやり、人に興味を持ち、自分が一番！自分が中心！の子どもたちが幼稚園という集団生活の中でしっかりと自分以外の人（お友だちや先生）の存在を意識しながら、時に物や場所を共有し、更には譲り譲られて、「ありがとう」や嬉しいな～楽しいな～という経験を繰り返してゆく。もちろん、嬉しい楽しいことばかりではなく、ご自分の思いが通らない...思いがぶつかり、物を取り合ったり、思いが食い違ったりして怒りが生まれたり...と様々な葛藤も経験してゆきます。様々な思いが揺れ動く経験を繰り返しながら自分以外の人（お友だちや先生）との関係を育ててゆく、その過程で子どもたちが心と身体で感じている思いに出来る限り寄り添い、必要な関わりや援助、見守りを丁寧に選んでゆきたいと思います。秋の深まりに負けないくらい、子どもたちの毎日が豊かに深まっていきますように。これから迎える「感謝の祭り」感謝祭では、収穫感謝だけでなく、神様が下さった命や様々な恵みに気づき感謝し、私たちの周りに溢れる沢山の「ありがとう」に心を留めてゆきたいと思います。どうぞご家庭でも日常に溢れる沢山の「ありがとう」を子どもたちと感じ、「ありがとう」と言葉にすることの大切さにも沢山触れていただきたいと思います。

### <赤組>

街中を歩いていると金木犀の香りがフワツとしてくるようになりました。朝晩は特に気温が下がり、秋になり始めたようですね。11月には色々な「秋」を見つけられるのでしょうか。また、体温調節が難しく風邪を引きやすい季節の変わり目、子どもたちの些細な体調の変化に留意していきたいと思います。

2学期が始まって2ヶ月が終わろうとしています。運動会を終え、心身共に一回り大きくなった赤組さんに任せたこと、声をかけていることが2つあります。1つ目は、お部屋の電気を消すことです。分級後、ホールに移動する際、いつも私が部屋の電気を消していましたが、身長が高くなりお部屋の電気のスイッチに少し背伸びすると手が届くよ

うになった赤組さん。つけたままはもったいないと話し、しっぽ当番に消してもらうことにしました。出来ることが増えた喜びを感じながらお当番さんのお仕事に取り組んでいます。2つ目、子どもたちには、昼食の準備を自分でしようと声をかけています。

「火曜日だからお箸とコップだね。歯ブラシも忘れずに」など繰り返し取り組むと時制の獲得にも繋がるかと思えます。子ども1人では難しいと思えますので、最初のご一緒に会話をしながら準備の準備をするのはいかがでしょうか。ご家庭でも子どもたちの自立への一歩を共に歩んでいただけたらと願います。自分のことは責任を持って取り組めるように今後の行事を通して伝えていこうと考えています。子どもたちの更なる成長を見守れること、感謝いたします。

さて、そのように日々成長をしている子どもたちです。最近は自分のことだけでなく周りのお友だちのことも気になるようになりました。まずは横の繋がりで。7人という小さな集団ではありますが、もうお互いの性格も知っており、その上で気にするようになりました。「今日は〇〇で遊ぼうか！」と誘い合ったり「〇〇ちゃんはどこにいるん？」と見失ったら探したりと仲良しな赤組さん！けれどやはり関わりが密になるとトラブルも起こり始めました。言葉での言い合いの「ケンカ」とまではいきませんが、ちょっと気になったことを親切の意味も込めてお友だちに伝える時に強い口調で言い放つと相手も不愉快になり「先生～」とヘルプが来たり、私が仲裁に入ることが増えました。そうして関わりながら社会性を育めるためには良い経験だと思いながら、相手への伝え方も知らせているところです。次に縦の繋がりで。緑組さんに感心をもって一緒に遊んだり、取り組んでいることを真似してみたりすることが増えたように感じます。園庭遊びでは、緑組さんが私に「見て！」と見せてくれていたことや運動会で見たこともあるのか、鉄棒にチャレンジするお友だちが出てきました。お部屋では、折紙で可愛いものを作っているのを見かけて、見よう見真似で作ったり、勇気を出して作り方を聞いたりしています。このように憧れの存在が現れ始め、それによって一つ小さい花組さんにも親切に接することが出来るのではないかと思います。聖マリア幼稚園で大切にしている縦の繋がりをより濃く持ち始められたことを嬉しく思います。

今月の主題は「感謝しつつ」です。11月にはお天気が良ければ大文字登山、そして感謝祭があります。クリスマスに繋がる大切な行事の一つです。「感謝」ってなんだろう？何に「感謝」する？と子どもたちとお話しながら過ごしたいと思うと同時に、平和に毎日を過ごせるように見守って下さっている神様に感謝したいと思います。

## ＜緑組＞

わが家は比較的長い期間、母が姉と私に読み聞かせをしてきていたと思います。今でも姉妹で好きな本は、当時読んでもらった「偉大なワンドゥードルさいごのいっぴき」というファンタジー童話。名作映画「サウンド・オブ・ミュージック」でヒロインであるマリア・ライナー先生役を演じたジェリー・アンドリュース著書の作品です。その本との出会い以降、私の読書の傾向はファンタジー巨編へと傾倒していきました。ミヒヤエル・エンデの「はてしない物語」、「モモ」は長編を読んでいる自分に酔ってい

るようなものでしたが...いずれにしても想像の世界は自分を豊かにしてくれました。でも、いつの頃からでしょう...本屋さんに行って本を手に取り、購入しても机に積まれるようになったのは...。子どもの頃のあのワクワクはいつしかTVに代わり、やがて手元で操作できるタブレットに情報入手の手段はとってかわりました。さて...この間のことです。紙芝居を棚から選んでいると「先生、今日も紙芝居するん？」と声を掛けられました。「紙芝居、苦手やねん」と。驚きつつも「なんで？」と問うてみると「だって、絵をじっとみてなあかんし」と答えが返ってきました。確かに...画面はストーリーに対して変化が少なく、見るよりも聞くことに集中せねば理解はできません。見ることは情報がわかりやすく、理解しやすいものです。一方で聞くことは、集中したとて、分からないときはつまらない時間にもなるでしょう。でも、言葉を聴き取る・読み取るとは、つまり「読解力」そのもので正しく読み、正しく理解できる力の獲得であり、後に物事の意味合いを熟考し、自分の意見を表現する上で必要不可欠なものです。しかしながら、最近の子どもを取り巻く環境は、大人同様に目まぐるしく、情報過多で、その多くはタブレット端末を中心とした視覚優位なものです。操作性が高く、これからの時代には必要な能力を育むうえで「ICT教育」として、小学生から端末を個人が持つ教育も一般化しつつあります。ただし、私の体感として子どもたちの読書離れ、そして言葉の表現（話し言葉を含む）に幼さを感じるが増えました。ものごとを読み解く力は、文章に触れない事には始まりません。そしてそれは、視覚で獲得する以上に、時間と集中力を有するものです。普段の生活で意識的に視覚に頼りすぎない「じっくり」とものごとに向き合う時間が子どもたちには必要です。YouTubeを始めアプリ操作で楽しむゲーム類...子どもに限らず、大人も好きな時間です。通勤途中の電車のなかは、スマホを覗き込む人ばかり。そういえば、新聞をつり革より上に持ち上げてでも、読もうとする人はいなくなりました。文庫本も新聞もスマホの中。ゆえに、大人もスマホやタブレット、PCから目を離せません。大人が集中するものに、子どもが興味を持たないわけがありません。大人が必死に見つめるものが子どもにとっても興味あるもの。ならば、大人も意識的に「じっくり」と話をする、話を聴く時間を持たねばならないのです。私たちは、子どもたちに自分のことを、自分の言葉で話せる人になって欲しいと思っています。そして言葉（会話）の端々に散りばめられた相手の気持ちを読みとろうとする人に育って欲しいと願っています。それは、いかなる時代になるうとも必要なコミュニケーションです。

四季の概念が崩れ、1年の45%が夏日となった京都。それでも、少しずつ、変化する日々の中で「じっくり」と向き合う時間を大切にしてみませんか？私の目下の目標は、かれこれ3か月リュックの底に沈んでいる推理小説を読み始めることです。